

今月の御教え

人のことをそしる者がある。神道はどう、仏教がこうなどと、そしったりする。自分の産んだ子供の中で、一人は僧侶になり、一人は神父になり、一人は神主になり、また、役人になり、職人になり、商人になりというようになった時、親は、その子供の中でだれかがそしられて、うれしいと思うだろうか。他人をそしるのは、神の心になわなない。釈迦もキリストもどの宗祖も、みな神のいとし子である。

……「天地は語る」第五十四条……

解説

教祖金光大神様の信ずる天地金乃神様は、私達人間すべてを、神の氏子と慈しんでおられます。この御理解も、前出の五十三条と同じく「他宗を、けなしてはいけない」との御教えであります。それまで、神社よりも厚遇されていた仏教寺院が、明治維新後の国策により、神道の下に置かれるという地位の逆転に伴い神仏間の争いが激しくなっていた明治初年、神道事務局の代表として宣教に出かける佐藤範雄師は「佐藤さん、仏教をそしらぬように、争う事のないように、みな神の氏子であるからな」と教祖様から、強く戒められたことを、後に述懐されています。教祖様にとって、お釈迦さまも、キリストさま、その他の宗祖、開祖もみな天地の親神様のいとし子であるとの御思いがひしひしと伝わってくる御理解であります。